

鈴木商会

レアアースリサイクル 3社で世界展開

ネオジム磁石回収で連携

【名古屋】大手総合リサイクル企業、鈴木商会（本社＝札幌市、駒谷僚社長）は4日、名古屋市内で開催された第17回レアメタル資源再生技術研究会で、シーエムシー技術開発（本社＝岐阜県各務原市、河邊憲次社長）と香港のグローバルリサイクル企業、斉合環保集団（CEG）と連携し、世界市場でレアアースのモバイル式リサイクルに取り組むことを明らかにした。3社連携を進めることでグローバルにネオジム磁石の回収、分離することが可能となり、希少資源の有効活用が期待できる。

一次分離はモバイル式

同社は北海道に拠点
を置き、自動車解体か
ら金属スクラップの回
収まで幅広くリサイク
ル事業を展開してい
る。2018年に世界
三大金属リサイクル企
業と言われるCEGと
業務提携を発表し、グ
ローバル展開を加速し
ている。

同社ではシーエムシ
ー技術開発が保有する
レアアース分離回収技
術を活用し、ネオジ
ム

などレアアースの回収
に取り組んできた。だ
が、拠点がある北海道
ではモーターなどネオ
ジム磁石スクラップの
回収に限界があり、十
分な成果を上げること
ができずにいた。今回
CEGと連携したこと
でグローバルネットワ
ークの構築が可能とな
りレアアース回収量の
大幅な増加が期待でき

るため、レアアース回
収事業のグローバル展
開に踏み切る。

その後、日本で最
終的な分離精製を行っ
ていく。

CEGでは年間50万
トのモーターを取り扱
っており、そのうちネ
オジム磁石入りのモー
ターは全体の2%に相
当する年間1万トほど
の回収が見込める。磁
石部分はその5%相当
となる500トほどの
発生が見込まれ、年間
150トのレアアース
の回収が見込める。

具体的にはアジア地
域でモバイルリサイク
ルを展開する。マレー
シアでは4月から、イ
ンドでは9月からスタ
ートを予定。その後は
タイなどでも計画して
いく考え。ネオジム磁
石スクラップを回収し
て現地で一次分離を行
う。

リサイクルプラント
は20フィートの国際標
準コンテナで収納・移
送が可能。処理能力は
国内外で行う一次回収
選別でネオジム磁石の
場合、日当たり100
ト、年間30トほど。国
内のネオジム・精製で
日当たり100ト、年
間30トほど。最終的に
ネオジム磁石をネオジ
ム・プラセオジムシュ
ウ酸塩と、シスプロシ
ウムシュウ酸塩として
回収できる。